

社部は本庁舎に移転するが、今後、ムダな施設はつくるべきではない。市長の考えは。

A 市長 松尾のみなさんのご意見も参考にしなければいけません。ムダをぶくのは当然ですが、つくりたいとは断定できません。

Q 市長は、少数精鋭で市職員350人体制（現500人）を目指すとのことだが、本当に可能だと考えているのか。

A 市長 早期実現は難しいですが、350人に近づけることは可能だと考えています。

Q 住民サービスの質や量を落とさずにできるのか大変疑問だ。いつまでにどの部署を、何人減らすのか。

A 市長 350人はひとつの目標値で、細かく精査して積み上げた数字ではありません。

Q 山武市でも、事業別予算の資料を作成しているが、事業費には職員人件費や、その事業の公債費（借金の返済費）は含まれていない。人件費や公債費も含めた総事業費を示す資料をつくることを提案する。

A 市長 人件費も含めたものが総事業費だという考え方に賛成です。現在の会計方式では実務的に難しいことありますが、実施の検討を指示しています。

Q 中期財政計画では、財政調整基金（財調）は合併特例の期間終了に備え大きく減少しないようにするとし、H23年度末の残高を68億円と見込んでいる。ところが実際には79億円、11億円も多く基金を増やしている。基金残高が多過ぎないか。

A 市長 適切だと考えています。

Q 市の財調残高は、全市町村ランキング34位（H19年度）。また、市の借金が205億円あるからというが、その7割以上は国が肩代わりする借金で、市の実質負担は50億円だ。一般に財調の適正額は、標準財政規模の10〜15%で、山武市では14〜21億円程度必要以上に基金をため込んでいると思うが、市長の見解は。

A 市長 市財政が健全なのは、あくまでも合併後の特別な状況下でのことです。借金返済に備えるなど、未来につけを残すべきではありません。

Q 市債の実質返済額54億円に対し財調と減債基金の総額はすでに75億円だ。借返済は理由にならない。市民は所得が減り苦しんでいるのに、市は基金をどんどん増やしている。しかも「納税推進のまち宣言」をだそうとするなど、間違っているのではないか。

A 市長 今後、5〜10億円を基金から取り崩さなければ予算を組めない時期が必ず近い将来にきて、財調はたちまちなくなります。財調の持ちすぎという議論は当たりません。

Q 昨年11月に議会の全員協議会で、H24年度の予算編成についての説明があった。財調の取崩しについては、H24年度で2億円、H25年度で1億円、それ以降は取り崩さずに予算を組めるようにするとの説明は、一体何だったのか。

A 市長 震災もあり、今後まちづくりのさまざまな事業をしなければいけません。そうした財源に充てるためにも、余裕をもった財政運営が必要だと考えています。

Q 長期的・具体的な展望もなく、基金をため込んでいるのが山武市の財政運営の実態だ。基金としてため込むのではなく、一定の部分は積極的な施策のために活用すべきだ。子ども医療費の助成拡大や住宅リフォーム助成制度など、年間数千円でできる。それをしないのは、税金の使い道が間違っているのではないか。

A 市長 長期財政計画がないから使ってしまったという議論にはなりません。現在のところは、慎重な財政運営をせざるを得ません。

一般質問の内容は、各議員より提出された原稿をそのまま掲載しました。
※詳しくは、図書館又はインターネットで会議録が検索・閲覧できます。（発行は後日）
お知らせ
齋藤悟朗議員が4月20日に議員辞職しました。

後日

議会を傍聴してみたいはかがですか。
住所・氏名・年齢を記入するだけの簡単な手続きで傍聴できます。
第2回定例会より常任委員会も傍聴できるようになりました。
詳しくは議会事務局まで ☎0475(80)1231

第2回定例会 (予定)
5月29日(火) 開会
5月31日(木) 一般質問
6月1日(金) 一般質問
6月4日(月) 議案質疑、委員会付託
6月4日(月) 委員会付託
6月4日(月) 経済建設常任委員会
6月6日(水) 総務常任委員会
6月6日(水) 文教厚生常任委員会
6月15日(金) 閉会

編集後記

風薫るさわやかな季節となりました。山武市では小・中学校の入学式が一齐に挙行され、新入生の元気な姿が目を引きました。
さて、平成24年第1回定例会について「議会だより」を編集しました。今回より、議員各自の議案に対する審議結果（表決）を掲載します。また、本会議に加え、各常任委員会の傍聴が可能となりましたのでお知らせします。

議会だより 編集委員会
委員長 越川 哲
副委員長 藤 真
委員 大塚 重忠
委員 本山 英子
委員 高橋 忠
委員 小川 良一

※日程は変更になることがあります。